

## 令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 名称 東京都立八王子盲学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(統括)=事務局長、主幹教諭(教務主任兼務、生活指導主任兼務、幼小小学部主任兼務、中学部主任兼務、高等部主任兼務)、副校長、計7名
- (3) 内部委員の構成  
副校長、経営企画室長、主幹教諭6名(教務主任兼務、生活指導主任兼務、幼小小学部主任兼務、中学部主任兼務、高等部主任兼務、統括)、進路指導主任の9名とする。
- (4) 協議委員の構成  
保護者代表2名、地域住民代表1名、学識経験者1名、視覚障害者施設代表1名、医療関係者1名、八王子市教育委員会代表1名、福祉団体関係者2名、雇用促進団体代表1名の10名とする。

### 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会  
第1回 令和元年7月10日(水) 協議委員8名、内部委員8名  
委嘱状交付、委員紹介、学校経営計画の説明、本校の現状と課題等の説明、学校評価アンケート原案の協議、意見交換  
第2回 令和元年10月18日(金) 協議委員7名、内部委員8名  
学校評価アンケート結果の分析・協議、課題に対する検討部署の確認  
第3回 令和元年12月10日(火) 協議委員9名、内部委員9名  
課題取組状況の報告・協議、本校への提言
- (2) 評価委員会  
第1回 令和元年7月10日(水) 評価委員2名、内部委員3名  
学校評価の基本方針確認、昨年度の学校評価報告、学校評価アンケート原案の検討  
第2回 令和元年10月18日(金) 評価委員2名、内部委員3名  
学校評価アンケート結果の分析、課題検討と校内検討部署の確認  
第3回 令和元年12月10日(火) 評価委員2名、内部委員3名  
課題取組状況の確認、課題改善等についての提言

### 3 学校評価の実施内容・結果と次年度に向けた提言

学校評価アンケートを保護者、生徒(中学部・高等部)、教職員、地域住民に対して実施し、結果の分析・考察から明らかになった課題に対して、委員から改善に向けての提言を得た。これを次年度の学校経営計画に反映させていく。

- (1) アンケート調査の実施時期・対象(人数)・回収率  
7月実施、中学部・高等部生徒(36人)回収率94.4%、保護者(39人)回収率94.9%、地域住民(23人)回収率46.0%、教職員(98人)回収率100%
- (2) 評価項目  
学校経営、学習指導、生活指導・安全教育、進路指導、外部対応・啓発活動
- (3) 結果  
A. 学校経営 7項目(1, 2, 3, 4, 5, 14, 18) ※カッコ内の数字はアンケート質問番号  
・7項目中6項目で、保護者の肯定的評価の数値が80%以上であった。  
・「幼児・児童・生徒の状況に即した学校行事の計画」に関する保護者の肯定的評価の数値は、昨年度より9.5%上昇した(97.3%)。  
・「寄宿舎と家庭・学校との連携」に関する評価は、児童・生徒を入舎させているすべての保護者が肯定的評価だった。  
・「教職員のライフ・ワーク・バランスの取組」に関する保護者の肯定的評価が65.7%と、他の項目に比較すると数値が低かった。「わからない」と評価した者も28.6%おり、教職員の働き方の様子は保護者にはわかりにくい様子がうかがえる。教職員の肯定的評価の数値は62.5%と昨年度(64.6%)とほぼ同様だった。  
B. 学習指導 3項目(6, 7, 13)  
・3項目中2項目で、保護者の肯定的評価の数値が80%以上であった。

- ・「オリンピック・パラリンピック教育の取組」に関する保護者の肯定的評価の数値は78.4%（昨年度75.6%）と、他の項目に比較すると数値が低かった。
- C. 生活指導・安全教育、進路指導 5項目（8, 9, 10, 11, 12）
- ・5項目中4項目で、保護者の肯定的評価の数値が80%以上であった。
  - ・「いじめや自殺を未然に防止するための取組」に関する保護者の肯定的評価の数値は、78.4%と、昨年度（87.8%）に比べやや低下した。
- D. 外部対応・啓発活動 3項目（15, 16, 17）
- ・3項目中2項目で、保護者の肯定的評価の数値が80%以上であった。
  - ・「ホームページの掲載内容」に関する保護者の肯定的評価数値は75.0%（昨年度73.2%）と、他の項目に比較すると数値が低かった。

(4) 課題と提言

①幼児・児童・生徒への指導について（「学習指導」に関連）

- ・褒めすぎはよくないが、褒めて育てることは、意欲を高め達成感や自信につながる指導として大切である。しかし、既にできていることを褒める必要はない。一歩進んだことに対する達成感を褒めるのがよい。そのためにも、目標をしっかりと立てて、授業が基礎・基本で終わらずに、少し難しい内容を取り入れるなどの工夫をするとよい。そして、小・中・高と、現在の評価の実態（どのようなことができ、どのようなことが課題なのか）の引継ぎをしっかりと行うことが大切である。

②学部間の連携・継続した指導について（「学習指導」に関連）

- ・本質的な学習を幼小中高と積み上げ確実に指導してほしい。基礎を除いて形だけ終わったのでは成果は出ない。基礎に時間をかけ全部ができなかったという場合は、次の段階で取り戻せる。そのためには教材を共有したり、授業の計画段階から学部間で連携することが大切である。このようなことを教科会で話し合うことが、学部間の連携につながっていく。

③会議時間の効率化、スリム化について（「学校経営」に関連）

- ・限られた会議時間では充実した議論や改善は難しいのではないかと。議題を整理し、焦点を当てて取り組まないと解決は難しい。趣旨をしっかりと考えて、若い教員からベテランの教員までが課題について、皆が考えていることを出し合って、じっくり話し合う機会をもつことも大切。授業時間の中に学部会を設定している学校もあるので検討したらどうか。

4. 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合（協議委員人数10人）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7	1	0	0	0	1	1